

技術室の使命

技術室長 福田 孝之

高専教育の特徴は、何と言っても豊富な実験実習です。高専は中学卒業後の学生を受け入れて、5年という長い期間に効率的かつ豊富な実験実習を通し、座学と連携してより実践力に富む技術者を育成するシステムで、大学の工学部や工業高校では絶対にまねのできない、日本の技術者教育機関の中では極めて優位な技術者教育を行っています。そして、その重要な実験実習を担っているのが技術室で、平成21年4月に発足して7年目になり、技術長以下15人のスタッフが、主に各専門学科からの依頼を受け、実験実習の補助や技術指導、また、近年コンピュータの発展とインターネットの普及により、極めて重要となってきた情報施設の整備運転等を行っています。

実験実習で最も大事なことは、とにかく安全に実施することです。実験実習には、危険な化学薬品や高速回転するモータ、高圧電源、旋盤等の各種工作機械操作など、少しでも油断したら大怪我をする危険性のある作業が沢山あります。それらを多くの学生が同時に実施する実験実習現場において、いかに安全に、そして教育効果が上がるように実施するかが一番の問題で、ただ見学だけの実験実習では意味がありません。従って、技術職員は担当教員と密に連携して、時間内に終了するように、そして事故が発生しないように細心の注意をはらって実施しなければなりません。そのためにも、事前の準備や機器の点検、整備が重要であり、また、高度化した各種機器の正しい取扱いを熟知し、安全かつ正確な操作の徹底が求められます。現在技術職員は、日々機器の管理と整備維持に努めており、さらに、技術を高める研修会への参加や、資格試験へのチャレンジなど、積極的に自己研鑽に励んでいます。そして、各自の専門分野に関する研修はもとより、他分野の学修にも取り組んでおり、年に1回は各分野持ち回りで学内研修会を実施したり、さらに外部の企業に見学研修に出かけたりと、幅広い技術の修得に努めています。

また、技術室のもう一つの重要な業務は、地域社会への貢献です。学校には小中学校や地域の育友会等から多くの出前授業の依頼があり、教員と連携しながら未来の高専生をつくるべく、科学の面白さや不思議さ、魅力を伝えており、本校の大きな広報活動となっています。さらに、地域企業の人材育成にも関わっており、NTCと連携して技術的な各種講座への協力も行っています。

このように、技術室は高専教育の根幹をなし、なくてはならない存在となっており、これからも、技術室職員には日々研鑽に励み、細心の注意をはらいながら業務を遂行し、その期待に応えて頂きたいと願っています。